

収穫作業の効率化・経費節減



加工用キャベツ 畑で詰めてそのまま出荷 大型コンテナ導入



大型コンテナにキャベツを詰め、畑で詰めていく上下両農産のスタッフ。収穫時間は4割ほど減った

加工・業務用キャベツ・ハクサイを生産する広島県のJA庄原甲収部加工用野菜部会は今年度、キャベツ出荷に大型コンテナを導入した。市場を通じて加工業者向けに固定価格で出荷するもので、収穫作業の効率化や経費削減に成果を上げている。キャベツの出荷では金属製コンテナが主流だが、まひが付着する可能性があるため、衛生面も考慮しプラスチック製を部会で購入した。

同部会は2013年、地 増えている。今年度のキャベツ加工用野菜工場が誘致、キャベツ栽培は20戸(6.6ha)されたのを機に、需要に応 が増えたことから、契約数 じた栽培で農家所得の確保、農や作業面などを考慮し、と耕作放棄地の解消をしよう、大型コンテナの導入に踏み くと設立。固定価格で出荷 切った。

するため経営計画が立てや、通常は収穫したキャベツ すとあって、年々会員が 小さなコンテナで働か

作業時間は4割減

産地拡大に生かす

搬出し、作業場外装を処理した後、規格ごとにコンテナ箱に詰め、出荷する。コンテナ箱では、収穫時に残った葉を剥き、品質を確認して傷にならないように向きに注意しながら詰め、そのまま出荷する。

部会ではコンテナの維持管理費として出荷単1kg当たり5円を支払う。それでも、段ボール箱出荷に比べ費用は半減、市場への出荷運賃も約1割削減できる。部会に加わる府中市の農事組合法人上下両農産は、6月下旬、スタッフ11人で1・6tを出荷した。通常は午前7時から4時間ほどかかっていた作業が、約3時間で終了。野菜整理職の末永龍司さん(64)は「人件費のほとんどが労務時間に費やされていた。作業時間が削減されれば品質管理に時間を当てられる。作付け拡大にもつながると効果を感じている」。

JAの横山昭治(74)は「センター長は、今後も生産者や関係機関と作業の効率化や所得向上に向けて検討を重ね、産地を広げたい」と願望を語る。

(広島 庄原)

枝肉相場低調で下げ

全農とつり肥育農家の意欲弱い

JA全農とつりは20日、鳥取県中央家畜市場(雲浦町)で7月の和牛(子牛せり)市場を開いた。雌97頭、去勢118頭が取引され、金額平均価格は80万8800円。枝肉相場が下げ基調で肥育農

83522円。次いで64頭、円取引された。日、鳥取県中央家畜市場と多かった。日(85)の購買者は96人。北海道(3)は雌104万4009、や沖繩県など県外から508円、去勢78万5578人が参加し、県内保留率は

は30%だった。全農とつりは価格の下げ要因を「黒種雄牛『白合白濁』、『白濁85』の3品種の繁殖用種牛の導入意欲は引き続きあるが、枝肉相場の下げ基調が続く、肥育農家の引き合いが弱かった」と分析する。

JAしまねは19日、松一80万円台には回復せず、一も見込める。肥育農家の

天候に負けるな
ラッキョウ植え
JA鳥取中央管内

